

「浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会」を設置しました



第1回検討委員会の様子（2023年8月8日）

浜松市では、各中学校が制服について校則の男女表記を無くしたり、夏服にポロシャツを導入したり、制服をブレザーに変更したりという取組を進めてきました。

教育委員会としては、こうした各学校の取組を尊重し、制服の見直しはそれぞれの学校の状況に応じて検討を進めていくものと考えていますが、全国的に制服の見直しが進められていることや、市民団体から市統一の制服を導入するべきとの要望を受けたことから、今後の制服のあり方や方向性について協議を行う必要があると考え、2023年8月に検討委員会を立ち上げました。

どんな人が検討委員会に参加しているの？

さまざまな観点から中学校の制服のあり方について協議するため、小中学校の校長先生や保護者の方はもちろん、大学教授や市民団体の方などにも参加していただき、専門的な知識や経験に基づいたご意見を伺いながら協議を進めています。

市で統一した制服を考える会議なの？

今回の検討委員会は、浜松市立中学校の制服のあり方と今後の方向性を検討するために設置したものです。検討する内容は、今後の協議によって決定します。

協議の結果、「市で統一した制服が必要」ということになった場合は、新たに制服の仕様などについて検討する場を設定していくこととなります。

第1回では、制服に対する国の動きや浜松市の状況などを事務局から説明した後、委員や有識者が感じている制服のあり方についての思い、アンケート調査に対する意見を伺いました。

委員・有識者からの意見

- ・大人の視点ではなく、子供の視点で検討することが一番大事。
- ・登下校だけ制服を着て、学校では校内着に着替えるという慣行になっている。これでは制服に不要論が出てくるのもやむを得ないのではないかと。
- ・教育を受ける権利として、一人一人が苦しめない教育環境、選択肢がたくさんあることが大事。
- ・性自認や生活実態に合わせた服装を自身が選択できることは、セクシュアルマイノリティへの特別な配慮ではなく、全ての子供たちへの当たり前の権利である。
- ・外国人の子供の立場を考えてほしい。
- ・制服が高い。登校時や登下校時にしか着用しないのに、これだけのものを買う必要があるのかという声がある。
- ・子供の数が減っている状況で多様性に配慮した制服をつくる場合、ロット数（同じ条件で製造される製品の数量の最小単位）が少なくなり単価も高くなる。この制服のあり方を検討することは意義がある。
- ・アンケートの多数回答だけを拾って議論を進めていくことは、この検討委員会に限ってはないと考える。アンケートによって多様な意見が出てくるのが大事である。

会議の資料や会議録は市公式HPで公開しています。

市公式HP ⇒ 子育て・教育 ⇒ 教育施策 ⇒ 浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会

URL : <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/somu/sesaku/seihuku/top.html>

